

【知】自ら学び、考え、進んで行動する人

【徳】互いを尊重し、協力する人

【体】心身ともにたくましく健康な人

杉並区立中瀬中学校

下井草4-3-29 電3399-2196

合唱の素晴らしさ

校長 香西 雅斗

先日の体育大会は、真夏を思わせる日差しの下で行われましたが、今は科学と自然の散歩みちで、ハナミズキが紅葉し寒桜（小葉桜）が咲き始めました。冬が駆け足で近づいてきているようです。

体育大会の次の週の金曜は、生徒たちの手による「制服・私服の話し合い」と3年生の活躍する場面が続きました。そして今日は音楽発表会です。

さて音楽発表会のポイントは何でしょうか。昨年「体育大会の個人種目は自由参加なのに、なぜ合唱は全員参加なのか」という生徒の声がありました。

体育大会は「自分で決め“挑戦”し“貢献”することの素晴らしさ」が一つのポイントです。もう一つは全員リレーや学年種目を通し「みんなで取り組む中で“勝つことよりも大切なもの”をつかむ」ことでした。

やるからには勝利を目指すのは当然です。そしてリレーや大ムカデなどの学年種目では、運動が得意な者だけで競技すれば、有利になります。しかし、どのクラスもそうはしません。生徒たちはすでに「勝つことよりも大切なもの」を、はっきりと言葉にはできないかもしれませんが、もっているのです。

合唱のポイントは「誰一人として不要な人はいない」だと思います。

歌が上手な人が集まった合唱が素晴らしいかという、必ずしもそうはならない。声がぶつかり合い、とても聞けない演奏になることもある。逆に一人一人は、音程が不安定だったり、固い声だったり、弱々しかったりと欠点があるのに、みんなで歌うと素敵なハーモニーを奏でることもあるのが、合唱の不思議さだ。

練習を重ねていくにつれ、各パートの声がまとまってきて、まるで一人の声の様に聞こえてくることがある。軸になる声はあるが、その人の声の欠点が消え、深みのある豊かな声が響いてくる。

人の体は共鳴器。自分の声が隣りの人の体を震わせ、自分も周りの声によって震える。口を開き、リラックスし吸う息と吐く息をそろえていくと、周りの人や他のパートの声が自分の体で響き始める。

響き合うのは音だけではない。心を開き、リラックスしていると、相手の気持ちが自分の心に響いてくるし、自分の思いも周りに響いていく。たくさんの人の色々な声が重なれば重なるほど、一人一人の欠点が消えて響き合い、誰一人として不必要なメンバーなどいないことが自然にわかってくる。そして、多くの人の思いが響き合うことによって、みんなの思いが一つになっていく。人と人との関係のあるべき姿とエッセンスが味わえるからこそ、合唱は素晴らしい。（昨年度の10月号より）

素晴らしい合唱というチャンスを生かし、心を開き、お互いを響かせ合い『心のハーモニーが響く中瀬中』を作っていきます。



<寒桜の花は小さくて白い>

制服と私服について考えを深める

10月15日（金）に、生徒会役員会の主催で「これからの中瀬中にふさわしいのは制服か私服か」についてみんなで考え深めるグループワークを、体育館で組別に、1～3年生が混ざって行いました。1・2年生からは3年生のリーダーシップに憧れる声が寄せられました。

1C 前原 鈴	<p>一つの考えだけではなく、反対意見も考えながら発表して、両方の考え方を大切にしながら話し合いが進んでいたので深く考えることができました。</p> <p>3年生が話し合いを進めてくれたので、自分も気兼ねなく意見を言うことができました。先輩方と関わる機会が少なく、心配だったが、さすが中瀬の先輩だなと思える場面がたくさんあった。</p>	<p>この活動こそ理想の生徒像に近づく一歩だと思います。</p> <p>1D 加藤 彩乃</p>	<p>いつもなら、うまく自分の気持ちや意見が言えないのに、先輩方のおかげであまり緊張せずに言えました。</p> <p>先輩方の意見は、レベルが高く、中瀬中生として恥じない着方や、中瀬中を大事にする考えが伝わってきて、とても尊敬できました。</p> <p>私も、このような先輩になりたいと思いました。</p> <p>1A 井上 珠里</p>
---------	--	--	---

2D 高苗 美羽	<p>異学年で交流をして、結構沈黙が続いてしまったが3年生がちゃんと仕切ってくれたので成功させることができました。（感謝しています）</p> <p>私のグループは全員制服派だったので同じような意見が多くていましたが、それぞれちゃんと考えていていいと思った。</p> <p>特に一年生がしっかりしていたので凄いなと思った。</p>	<p>3年生は、意見に対して、自分の意見や、疑問などを積極的に発しているいなと思った。</p> <p>2B 種元 煌士</p>	<p>ただ、制服がいいとか、私服がいいではなく、なぜそうした方がいいのか、そうすることでの様なメリットがあるのか、自分で整理し根拠を言う事が大事だということ、学べました。</p> <p>普段あまり接点のない、他学年と関わりあえて良かったです。</p> <p>1A 石崎 颯人</p>
----------	--	---	---

グループワークは生徒会役員会のリーダーシップで進行しました。

（これまでは司会を山之内さん達にお願いしていましたが、今回は生徒が自分達だけで行う、初の挑戦です）

まず生徒会役員から

「制服と私服のどちらがいいか、便利か、楽か、を話し合うわけではありません。中瀬生として生徒みんなで決めた『理想の生徒像』にのっとって、『これからの中瀬中にふさわしいのは制服か私服か』についてみんなで考え深めていくことが目標です。」

という狙いが示されました。次に、夏休みに集めた生徒の意見をもとに、生徒会役員が行ったパネルディスカッションのビデオが発表されました。



三年生が話し合いを進めてくれたので、自分とは違う意見の人もいたけれど、反論という形で、意見を出すこともできた。

一年生もちゃんと自身の意見を出すことができていたので、話を進めてくれた三年生がいてくれてよかったと思う。

2C 長元 慧悟

学年で考え方が変わるのでなく、一人一人、意見が違っていることに気づいた。

先輩の雰囲気でも話しやすいかった。先輩が発言した時、とても嬉しかったので、自分も発言するようにしたい。また先輩が発言しやすい雰囲気を作れるようになったらいいと思った。

2B 大野 千夏



＜生徒会役員が作成したビデオ＞

パネルディスカッション1 「私服派の主張とそれに対する意見」の概要

<p>＜論点1＞</p> <p>「目指すのは多くの問題を皆で考え解決する中瀬生。私服で起こる課題を自ら考え成長する高いレベルを目指す。」</p> <p>↑「解決にはルールが必要。でもルールが増えると自由ではなく、窮屈な生活となるのではないか。」</p> <p>「確かにそう。でも、ルールで縛るより、生徒一人一人がレベルの高い行動を、高い意識で行えるようになりたい。」</p>	<p>＜論点2＞</p> <p>「私服にすることで個性を出せる。伸び伸びと生活し、充実した中瀬中となる。」</p> <p>↑「個性は、人柄や行動、考え方で個性は発揮できる。それに制服なら学校全体での景観を出せる」</p> <p>「もちろん人柄や行動も大切だが、服装も大切だと思う。」</p>
---	---

ここで生徒会役員より「個人の個性を出すことと学校のまとまり」「個性を出すとはどういうことなのか」について、グループ（1・2・3年混合）になって考えを深めてください」という指示で、1回目のグループワークが始まりました。



10分ほどの話し合った後、もう一つのパネルディスカッションのビデオを見て。その後にもう一回グループワークを行いました。

パネルディスカッション2 「制服派の主張とそれに対する意見」の概要

<p><論点1> 「中瀬中が目指しているのは、みんなで力を合わせて、行事、学校を作っていくこと。だから全員で同じ服を着ることで、中瀬中を意識し、団結感を生み出せる。」 ↑「服装は表面的。中身が伴わない団結は意味がない。私服は、心に向き合う真の団結につながる。」 「確かに、形だけではだめ。だから形から入り、そこから相手のことを知って団結。」</p>	<p><論点2> 「地域から、あって良かったと思われる中瀬中でありたい。制服は、地域の方に中瀬生の礼儀正しさを伝えられる。」 ↑「私服でも、挨拶や会釈で礼儀正しさは伝わる。制服でもだらしがなければ、マイナス。」 「確かにその通り。ただ最初に目に入るからこそ制服。」 <論点3> 「私たちが決めた理想の生徒像は、制服と言う形があった方が、引き継ぎやすい」</p>
--	--

グループワークを通して生徒が考えた事を3年生から紹介します。



3A 深川 桃加

「個性を出すために私服にするという手段もあるが、制服でも髪型などで個性を出せる」という意見や、「統一感も大事だけど、私服でより明るく華やかな中学校も現代の社会に合っている」という意見に納得させられた。
一人ひとりが考えることが大切だと思った。

3A 深川 桃加

：学年により異なる視点から話し合うのは、面白くて新鮮だった。
地域との関わりや実用性、個性、今多くに取り上げられている多様性など、多角的に事物を見た意見があり、学校の在り方について考えさせられた。
また、団結感や礼儀正しさではなく、小学生が私服だったことから、純粋な憧れという視点も面白かった。
3C 長谷川 優

3A 対馬 慧

：パネルディスカッションをもとに、学校の景観や、イベントでの統一感がある制服がいいとなった。
それに加えて、今日はどのようにしたら中学生らしくできるかや、理想の生徒像についての他学年の意見を聞くことができ、共有もできて、制服、私服以外でも楽しく話し合えてよかった。

3A 大森 優羽

：私服もいいが、どこまで許可するかが問題だと思う。例えば肩の出る服やお腹の出る服はいいのだろうか。
：制服にいくつかのパターンを用意するつもりもあつた。例えば女子のリボンの色や柄を複数用意したりするのだ。
：私服派の意見が個性を出すことにあるならば制服のまま個性を出すことができないのかを検討することも大切だと思う。：3C 中野 睦月

3A 大森 優羽

：今の時点でルールや規律を守れていない人がいるのに、私服だともっと増えると思った。また、女子と男子でルールが違うと、混乱してしまうと思った。
制服で団結力が生まれるかはわからないけど、統一感はあるから行事の時にカッコよく見える。

3C 佐藤 若奈

：私は私服派だったが、異学年と話し合いを深めることによって、制服でも防寒着の有無などで10分個性が出ることや、小学生主に女子は中学の制服を楽しみにしていることに気づけた。
後者の意見は一年生が出してくれたものであり、小学生が一番近い学年だからこそ出せた意見なのではないかと思う。
学年も考え方も違う人と話すことで、自分の考えを発展させたり、新たな観点から物事を考えられることを学ぶことができた。

3B 和田 朋佳

：他学年と話し、普段自分が考えている事と違う、新しい考えを得られた。『理想の生徒像のシンボル』をテーマで話した時、中瀬中生はきちんと校則を守れると言った後輩がいて、入学半年なのに、その様なことが言える事に驚いた。
自分の意見をただ伝えるだけでなく、他の人の意見をしっかりと取り入れることで、自分では気づかないことにも気づくことができた。

3A 小田 朱理河

：私服は個性が出るという意見しか思いつかなかったが、異学年グループワークを行って、一年生から、『私服は趣味が出るだけで、個性ではないのではないか』という意見が出た時、なるほどと、僕も学ばされました。

3C 古川 菜々美

：「私服にしたらすべてが許されるのか？」という意見があつた。
例えば、制服でジャケットの前は閉めるルールがあるが、私服ではどうか。「それは個性を出すことなのか、そうではないのでは？」と自分じゃ掘ることのできなかった考えまでたどり着くことができた。
：多様な意見をまとめ、細かな問題をなくしていくのに欠かせないものだと思う。